

# まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構専務 原田雄一郎



17

ていたが、加盟国間の意見の調整がつかず、不調に終わった。今次会合で進展がなければ、WCPFCの資源管理機関としての能力に赤ランプがともる。

## ◆歯止めかからぬ

巻網

一方、今年8月に開催された科学委員会で、この3年間の規制の効果が退が著しいメバチ資源の回復を図るため、2003%の削減率を達成して

# 巻網FADS規制なるか？

## 中西部太平洋マグロ資源管理の焦点

### ◆問われる

WCPFCの能力

機能不全との批判を受けた。延縄は、漁獲量を30%削減。巻網は、集魚装置(FADs)を用いた操業を3カ月間禁止した。

9年から11年の3年間、厳しい漁獲規制を実施した。延縄は、漁獲量を30%削減。巻網は、集魚装置(FADs)を用いた操業を3カ月間禁止した。

一方、今年8月に開催された科学委員会で、この3年間の規制の効果が退が著しいメバチ資源の回復を図るため、2003%の削減率を達成して

結果が示されたが、巻網については、驚くべき結果だ。会議に出席した三宅真氏(国際水産資源研究所)によれば、FADs操業の禁漁期設定も、その経済的發展を支える重要な漁場だ。WCPFCのマグロ資源管理が機能不全に陥れば、影響するところは大きい。

12月の年次会合に向け

(毎月1回掲載)



大西洋マグロ類保存国際委員会(ICCAT)は、明年の東大西洋・地中海のクロマグロ総漁獲枠を500ト増加し1万3400トと決め、11月19日終了した。

### ◆機能回復した

科学委員会の勧告を尊重した決定だ。数年前、各国が自国の漁獲枠の確保に固執し、譲らず、科学委員会の勧告を超過する総漁獲枠を決定。結局、絶滅危惧種の保護を目的とするワシントン条約の介入を許し、全面禁漁となりかねない事態となったが、今回の決定はICCATが資源管理機関として、機能を回復したことの証しともいえ、朗報だ。

科学委員会の勧告を尊重した決定だ。数年前、各国が自国の漁獲枠の確保に固執し、譲らず、科学委員会の勧告を超過する総漁獲枠を決定。結局、絶滅危惧種の保護を目的とするワシントン条約の介入を許し、全面禁漁となりかねない事態となったが、今回の決定はICCATが資源管理機関として、機能を回復したことの証しともいえ、朗報だ。